

高齢者の買い物支援と見守りを充実

ふるさと基金で

移動販売車の購入経費の一部を助成

集落を移動販売車面で回って、高齢者等の買い物支援や見守り活動を行っている安達商事は、このほど県の補助事業を活用して軽車両の小型移動販売車を導入。4月から、家の玄関先まで商品を運ぶ、さらにきめ細やかな活動をスタートしました。車両の購入経費には、県補助金のほか、町の「愛と元気の日野町ふるさと基金」の一部を取り崩して助成し、高齢者の安心・安全な生活確保に役立てました。



小回りが利くから“こまわり号”よろしくね
皆さんおなじみの『ひまわり』がデザインされています

有限会社安達商事（安達享司 代表取締役）は、根雨や黒坂の店舗で食料品や日用品などを販売するとともに、移動販売車に商品を積んで集落を回っています。交通手段を持たない高齢者などにとっては、歩いていける場所で購入ができ、生活の支えとなっています。

また、県や町と「中山間集落見守り活動協定」を結び、異変を発見した場合は役場に通報するなど、高齢者をはじめ、地域の見守り活動も行っています。さらに、歩いて店舗や移動販売車両まで来れない人も多くいることから、このほど県の補助事業を受けて、小型移動販売車を購入し、独居高齢者宅などの

を経営。また3トン車「ひまわり号」1台、2トン車「こまわり号」2台の移動店舗車と軽自動車「こまわり号」1台を所有し、移動販売を展開しています。今、社会的な問題となっている高齢者などの買い物支援と見守り活動が認められ、全国から視察や講演依頼が絶えない、注目される企業です。昨年は、町内の若者も含め新卒者2人の雇用もありました。

代表取締役の安達享司さんは「私たちのお客さんは、在宅にいたる元気な高齢者です。しかし、年々、移動店舗車に出たくても出られない人や、一人暮らし、高齢者二人暮らしの方が増えつ

つあり、皆さんに見てもらおう、選んで買ってもらうという私たち職員みんなの思いが、小回りの利く、小型の移動販売車の導入を実現しました。また今年の豪雪では、車1台がようやく通れるくらいしか除雪されませんでした。軽自動車は軒先まで入ることができ、移動販売車の新たな可能性を確信しました」と、新たな事業展開に意欲を燃やしています。

荷台は商品を陳列することができるよう工夫されている。保冷設備を備えている



介護のポイント学ぶ

黒坂で介護教室



介護をする立場や受ける立場を考え、真剣に聞く参加者ら

黒坂地区コミュニティ推進協議会（中原明会長）主催の介護教室が、3月6日、町公民館で開かれました。

「知って得する！介護のポイント」と題して、介護老人保健施設おしどり荘の作業療法士、山本香織さんを講師に迎え、立ち上がりや介助の仕方、車いすの操作など介護の基本を実技を交えて指導しました。

また、同施設の管理栄養士、高橋澄子さんが「簡単な介護食」について紹介。食べやすいようとりみをつける食材や食べやすく工夫された食器などについて話しました。参加者は、介護する立場や受ける立場を考えながら聞きました。

張り切って頑張る

おしどり作業所竣工式



新しい搾油室で、ナタネ油の搾油について聞く出席者ら

3月29日、黒坂のおしどり作業所（藤岡公子所長）で作業所の竣工式が行われました。

平成18年に施行した障害者自立支援法により、新体系の障がい福祉サービスに適合した増改築を行ったもので、耐火や車いすでの利用も可能にしたものです。また、ナタネを搾る搾油室も整備されました。

藤岡所長は、「良い作業場を作っていたら良かった。ナタネ事業も拡大しました。利用者が安心して通っていただける場所になりたい、地域に開かれた作業所になりたい。見学も大歓迎」と意気込みを語りました。利用者も「頑張りたい」と笑顔を見せました。

感謝の気持ちを込めて

日野中吹奏楽部コンサート



迫力のステージを見せる部員ら。客席は感動した

卒業する3年生と、日ごろから応援してもらっている地域の人たちや保護者に感謝を込め、日野中学校吹奏楽部による「桜薫るコンサート」が、3月20日、町文化センターで開かれ、100人が楽しみました。コンサートは生徒たちが進行を行うアットホームなもの。まず、1、2年生が4曲を披露。客席からは自然とリズムを取る拍手が起きました。そして、3年生が加わると迫力が増し、会場を圧倒しました。最後に3年生が地域の人たちや保護者に向け、涙を浮かべながら感謝の言葉を述べました。観客は旅立ちとこれからの活躍に期待しました。

気持ちも新たに

町消防団出初式



見事な一斉放水を見せる

4月3日、町消防団（藤原洋一団長）の出初式が、根雨小学校グラウンドで開かれました。

当日は、団員30人をはじめ、町長など町関係者、町議会議員や消防委員などの来賓が出席しました。式では、この度の東北地方太平洋沖地震の被災者に黙とうをささげ、景山町長は、「震災は先の見えない状況の中、地元消防団も駆けつけている。この町も11年前に震災に遭い、皆さんに頑張ってもらった。これからもお願いしたい」とあいさつ。式典の後は団員が野田橋まで行進し、野田河川敷で一斉放水を行いました。